

今日はお寺の入り口、山門^{さんもん}についてお話をいたします。

昔、お寺は人里離れた山の中に建てられる事が多く、現在のように町中にあるお寺にもその名残から、山の名前「山号^{さんごう}」というものが付けられています。

例えば、曹洞宗^{そうとうしゅう}の本山^{ほんざん}である二つのお寺、福井県の永平寺^{えいへいじ}は吉祥山（きちじょうざん）、横浜の鶴見にある總持寺^{そうじし}は諸嶽山（しょがくさん）です。浅草観音^{せんそうしん}で有名な浅草寺^{せんそうじ}の山号は金龍山（きんりゅうざん）、厄除け^{やくよ}で有名な成田山（なりたさん）は新勝寺^{しんしょうじ}というお寺の「山号」です。

このようにすべてのお寺に「山号」が付けられています。

すなわち、山の中のお寺に入る門ということから山の門と書いて山門と言われ、仏殿^{ぶつでん}や法堂^{はっとう}と並び、七堂伽藍^{しちどうがらん}の一つでお寺にとって大変重要な建物です。その多くは二階建てで、上層^{じょうそう}には羅漢像^{らかんそう}などがまつられています。

また、三つの門と書いて三門^{さんもん}と呼ばれているお寺もあります。京都にある臨濟宗^{りんざいしゅう}の本山東福寺^{とうふくじ}や、浄土宗^{じょうどしゅう}の本山知恩院^{ちおんいん}などでは三つの門、三門と言われています。

これは三解脱門^{さんげだつもん}を略したもので、「空解脱^{くうげだつ}」・「無相解脱^{むそうげだつ}」・「無作解脱^{むさげだつ}」の三つの解脱、簡単に言えば我々の抱えている悩みや迷い・苦しみなどから、この門をくぐり仏道を学ぶことによって解き放たれ、悟りの道に入る事ができる門ということです。

その他にも、初期の寺院建築には、南の正門^{せいもん}、東西の脇門^{わきもん}の三つの門があったことから三門と呼ばれた説や、正面の入り口の他に、左右の入り口が設けられたことから三門と呼ばれた説、また、「声聞^{しょうもん}」（出家修行をする僧侶）、「縁覚^{えんがく}」（悟りを開いた人）、「菩提^{ぼだい}」（悟りを開き如来^{にょらい}に成ろうとする者）、の三者が通る門であるから三門と呼ぶという説もあります。

ちなみに大本山永平寺は山の門と書く山門^{さんもん}です。その山門は、禪師様と、これから修行をする僧侶、無事に修行を終えた僧侶のみが通ることが許されています。

お寺にとって山門はとても重要な建物なのです。境内地^{けいだいち}に入るためのただの入り口ではなく、その門をくぐる者を悟りの世界へと導くための境界線なのです。

その為、仏教の修行者である僧侶は、山門をくぐる時には必ず手を合わせ一礼する事を心がけています。

皆さんもお寺にお参りをするとき、山門の前で手を合わせ、一礼をしてから門をくぐってみてください。きっと普段とは違う気持ちになると思います。